

第1回 現庁舎跡地(周辺)利活用検討分科会 議事録

日 時:令和 7 年(2025年)7 月 23 日(水)10:00～

場 所:議会棟 2F 予算決算委員会室

参加者:(委 員)星野分科会長、国吉委員、本間委員、藤本委員
(事務局)庁舎周辺まちづくり課
(関係課)都市デザイン課、市街地整備課、交通企画課

・第1回分科会は審議事項に、熊本市情報公開条例第7条第 4 項ア及びイ(法人等に関する情報)、第6号(審議、検討等に関する情報)に該当する不開示情報が含まれるため、分科会長発議により、「現庁舎跡地(周辺)利活用検討分科会運営要綱」第7条2項に基づき、非公開で開催した。

1. 開会

2. 分科会長挨拶

3. 議事

(1)サウンディング調査の結果等について

(内容)

- ・事務局から、6月9日の庁舎整備に関する特別委員会資料1「現庁舎跡地利活用等に関するサウンディング型市場調査概要」について報告し、跡地利活用についての民間事業者の見解や周辺地権者の建替え意向等について情報共有を行うとともに、今後の課題等について議論を行った。
- ・同資料を、検討委員会に提示することで決定。

(主なご意見)

- ・A 部門(跡地利活用)は参加者も多く、熟度も高いが、B部門(周辺地権者)の参加者が少ないことが今後の課題。(星野委員、国吉委員、本間委員、藤本委員)
- ・地元地権者の中には、まちづくりにどう参画すればよいかわからないという方も多いのではないか。そのような方々の意見も上手く吸い上げていく必要がある。(藤本委員)
- ・周辺の地権者には、跡地の利活用が、地域全体のまちづくりにとってどれだけ有効かということを、認識してもらい、自分たちのまちが発展するためには、どのような機能が必要かというような目線で意見をしてもらうような機会があるといいと思う。(国吉委員)

(2)跡地利活用を契機とした他都市のまちづくりの事例について

(内容)

- ・事務局から、横浜市の関内駅周辺地区と福岡市の天神地区の跡地利活用事例の調査結果を報告し、議論を行った。同資料を、検討委員会に提示することを決定。
- ・市民や事業者との意見交換の場の必要性について確認。設置にむけた検討を開始したい旨について、次回検討委員会に、報告することを決定。

(主なご意見)

- ・市民や地域などとの関係を築いていくためにも横浜市のコンセプトブックのようなものが重要。(星野委員、国吉委員、本間委員、藤本委員)
- ・横浜市の跡地公募の際には、公募要件に加えて、市の考え方を補足するものとしてコンセプトブックを参考として示した。(国吉委員)
- ・横浜市のコンセプトブック作成にあたり、「まちづくりラボ」が中心的な役割であったと思う。熊本でも、どう組織していけばよいかが課題。(藤本委員)
- ・(横浜市における「まちづくりラボ」組成の経緯等について)まちづくりラボは、まちづくりに関心がある市民やデベロッパー等で、真剣に考えてくれる人によるチームであった。庁舎移転等が議論されるなかで、何らかの形で、関内の今後の展開に、関わっていききたいという方々がたくさんおられ、無償で参画するということになった。(国吉委員)
- ・熊本市においても、(横浜市のまちづくりラボのように)市民等との意見交換の場として、何らかレクチャーのようなものをしっかり行い、参加者皆で勉強していく場を検討すべき。(星野委員)
- ・まちづくりについては、大都市のように一気にではなくとも、熊本なりの地域の自立のようなものを、商店街の方々等を含め、少しずつでも高めていくべき。(国吉委員)
- ・現庁舎跡地にふさわしい機能については、公共的な部分等は、今後、分科会でも検討を深めていきたい。(星野委員)
- ・人口規模や、開発の種類・規模も考慮し、今後も引き続き、他都市のまちづくりの事例を報告してほしい。(星野委員)

(3)その他

①分科会の運営について

- ・当分科会は、まちなか再生・賑わい波及検討分科会とも密接に関係するため、今後は議題の内容に即し、分科会を合同で開催するなど、柔軟に対応していきたい。(星野委員)

4. 閉会